

米山奨学生紹介

「国際的な海洋人材を目指して」

2022-23年度米山奨学生

シュ ケンキ

北海道大学・函館五稜郭RC

皆様、こんにちは。朱妍卉と申します。現在北海道大学環境科学院水圏生物専攻の生態系解析変動分野に所属している博士3年生です。2012年に来日し、2014年に北海道大学の水産学部に入りました。

高校生のときから海が好きで、海に関係する仕事に就きたいと考えていて、水産業が発展している国に留学しようと考えていました。日本の水産関係の大学や大学院、企業の研究所では、毎日先進的な基礎研究や応用研究が行われ、次々に新しい技術や理論が生み出されています。これらの科学技術や学術理論は、水産関係の人々の生活や社会を支える道具となり、考え方となっています。ですので、自分も好きな海に触れつつ、水産関係の大学で知識を学んで、その知識を日本と中国の水産業に活かしたいと思い、日本の水産関係の大学に留学しようと決めました。

大学4年生から今まで、魚群探知機を使って、日本沿岸海域の資源量と海洋環境に関することを研究していました。博士課程では、宮崎県日向灘海域において漁海況情報の取得技術の開発と、リアルタイム情報配信システムの構築を研究テーマとしました。16隻の漁船に搭載されている魚群探知機・温度計・潮流計などで、操業日のデータを得られることから、より広範囲・高頻度、かつ多数の基礎情報が取得できます。それらの基礎情報を解析することによって、より詳細に資源量と海洋環境の変動・関係を把握することができます。また、それらの情報は3G回線を通して管理サーバに送信し、データ処理を行った後に魚群分布情報を漁業者に公開する仕組みを構築し、操業の効率化に貢献することが期待されています。

大学時代にフィールド調査を通して、多くの人と関わりあい、協力しながら一つのことを達成することが多く、漁業現場における調査研究は漁業者を始めとする現地の関係者と密に協力して調査を行うことが不可欠だと分かってきました。これまで数年にわたり調査を続け、漁業者や現地関係者とも友好的な関係を築き、日本の沿岸漁業の問題や深刻な状況も目に見えてきました。ですので、卒業後は水産試験場で働きたいと考えています。自分が大学で学んだ知識や身につけた能力を活かし、漁業者の高齢化や漁獲量の不安定性といった問題を抱えている日本の沿岸漁業に貢献したいと考えています。

将来的には、アジアに限らず国際的な人材になりたいと考えています。日本の大学・社会で身につけた多角的にものを見る力、冷静に考える力、コミュニケーションを上手にとる力等々を使い、国際的な海洋人材になりたいという強い意志を持っています。やはり海は全世界を繋げていますので、海に関するものは全世界共通・共有できると思っています。日本で学んだ知識を活用し、視野を広げ、世界的な海洋問題・資源問題などに力を入れたいと考えています。

